

| | |
|--|------------------------------------|
| 申請者領域・氏名 | 総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 浜野 学 |
| 指導教授氏名 | 中路 重之 |
| 論文審査担当者 | 主 査 福田 眞作 副 査 大門 眞、蔵田 潔 |
| <p>(論文題目)</p> <p>一般住民における肥満と上腕-足首脈波伝搬速度 (baPWV)、収縮期血圧との関係に関する研究：岩木健康増進プロジェクトにおける 5 年間の追跡研究</p> | |
| <p>(論文審査の要旨)</p> <p>腹部肥満は、高血圧、脂質異常症、糖尿病を引き起こし、動脈硬化を加速させる。これまで、その動脈硬化の代表的指標として血圧が用いられてきたが、近年、上腕-足首脈波伝搬速度 (baPWV) が開発され、動脈硬化度を簡便に評価することが可能となった。</p> <p>肥満と動脈硬化・血圧との関係は、性や各年齢に応じて変化すると考えられるが、肥満から動脈硬化の出現までには一定の時間経過が存在する。したがって、動脈硬化の予測指標として肥満度の有用性を検討する場合には、一定期間以上の追跡調査が必要である。</p> <p>本研究では、青森県の一般住民を対象とした 5 年間の追跡研究によって、肥満指標と血圧・baPWV の関係を検討している。</p> <p>対象と方法：2006 年度および 2011 年度、2007 年度および 2012 年度の岩木健康増進プロジェクト健診の両方を受診した者のうち、重複者、欠損値のある者、基礎疾患のある者（悪性腫瘍、脳卒中、虚血性心疾患、慢性肝疾患、慢性腎疾患、糖尿病、高脂血症）、期間中に閉経した女性および血圧関連薬服用者を除外した 265 名（男性 102 名、女性 163 名）を対象としている。調査測定項目は、閉経の有無、現病歴・既往歴、薬剤服用の有無、生活習慣（喫煙、飲酒、運動）、BMI、体組成（体重、体脂肪率）、腹囲、血圧、baPWV である。なお、追跡期間が 5 年と短いため、対象者を年代で、若年成人期（20-39 歳）、中年期（40-59 歳）、高年期（60 歳以上）に分けて検討している。</p> <p>結果：若年成人群および高年期群では、肥満指標（BMI、体脂肪率、腹囲）と baPWV・収縮期血圧との間に有意な相関関係がみられなかった。中年期群男性では、baPWV と体脂肪率の間に正の相関がみられた ($\beta=0.35$, $p=0.03$)。中年期女性では、baPWV と BMI ($\beta=0.28$) および体脂肪率 ($\beta=0.28$) との間に相関がみられた（いずれも $p=0.01$) 他、収縮期血圧と腹囲との間に正の相関傾向がみられた ($\beta=0.21$, $p=0.07$)。</p> <p>本研究は、メタボリック症候群の診断基準の 1 項目となっている腹囲が動脈硬化の指標としての有用性が低いこと、他の簡易的肥満指標（BMI、体脂肪率）についても、性や年齢によっては動脈硬化指標として不十分であることを指摘するなど、いくつかの新知見を含んでおり学位授与に値する。</p> | |
| 公表雑誌名 | 体力・栄養・免疫学雑誌 24 巻 に掲載予定 |